

「英語教育特集」



吉野 達雄氏

中央区教育委員会事務局副参事、教育政策・特命担当。平成元年度より東京都公立小学校教諭。平成18年度より足立区教育委員会教育指導室に勤務。平成26年度より、中央区教育委員会に勤務し、国際教育パイロット校である常盤小学校を中心に、国際教育の推進に関わる。

英語に「親しむ」以上の目標を掲げた研究を



小学校英語は2020年をターゲットに小学校3・4年生で必修化、5・6年生で教科化が見込まれ、大きなターニングポイントを迎えている。授業手法、教材開発、評価、研修、ALT活用など、解決しなければならぬ課題が顕在化するものと思われ、低学年から英語教育に力を入れる小学校にフォーカスを当て、これからの小学校英語改善のポイントは何か、行政として望まれる対応は何か、学校経営と教育行政をそれぞれの立場から提言をいただきます。

「習う・慣れる・試す」の3ステップが必要



山口 紀生氏

LCA国際小学校校長。株式会社エル・シー・エー代表取締役。1978年横浜国立大学教育学部卒業後、相模原市立小学校で教鞭をとる。1985年に退職し、私塾「LCA」設立。2000年にLCAインターナショナルプリスクール設立。2005年に小学部を設立。2008年に構造改革特区制度を利用してLCA国際小学校として国から認可を受ける。相模女子大学非常勤講師。

英語を使う場を増やす

山口 特区申請の動機としては、常盤小学校を指定して英語教育、国際理解教育、伝統文化教育を3本柱として、推進しています。昨年、「中央区国際教育推進検討委員会」を立ち上げ、学識経験者としてLCA国際小学校の山口校長を委員長に、副委員長を務めていただきました。小学校において英語イマージョン教育を実践していただけることに対し、小学校外国語活動に対する改善の方向性を捉えたいと考えています。

英語を話せる小学生を育てるには

山口 本校は相模原市国際教育特区における学校設置認可を受け、2008年に設立した株式会社設立の私立小学校です。日本の教育をしっかりと身につけたうえで、英語を身にこたせる人材、世界を舞台に社会貢献できる人間を育てることを教育目標としています。児童はすべて日本人で、1〜3年は外国語以外の教科はすべて外国人教員が英語で指導します。4年以上は国語、算数、理科、社会は日本語、それ以外の教科は英語です。高学年の授業は相手と英語イマージョンと英語イマージョンとを併用してコミュニケーション方法を選択する能力や対立関係を調整する能力を身に付け、日本語の流暢さを身に付け、公立小学校の場合には英語に力をつける時間を増やします。

日本に誇りを持ち 海外で活躍できる人材を

パイロット校で着実な成果を

山口 英語を身に付けるには「習う・慣れる・試す」の3ステップが必要で、算数の計算問題は解き方を教わってドリルで練習すること、野球ならバットの持ち方や打ち方を教わったり、サッカーならボールを蹴ったりする。これが「慣れる」。従来の英語教育は「習う」だけで、もっと慣れる機会を増やし「試す」というまで持っていくべきです。吉野 計算問題や漢字練習は「慣れる」目安がつけやすいですが、小学校英語は「試す」までできれば慣れたのか、目安が明確ではありません。現在、常盤小では具体的な目標や活動設定

慣れるまで練習が必要

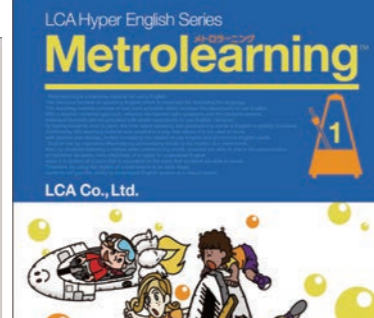
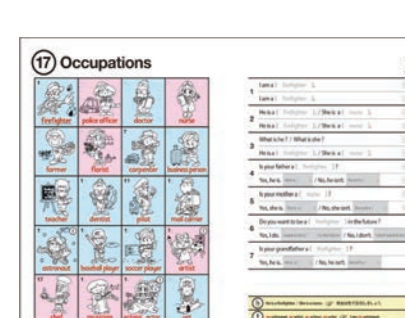
山口 英語を身に付けるには「習う・慣れる・試す」の3ステップが必要で、算数の計算問題は解き方を教わってドリルで練習すること、野球ならバットの持ち方や打ち方を教わったり、サッカーならボールを蹴ったりする。これが「慣れる」。従来の英語教育は「習う」だけで、もっと慣れる機会を増やし「試す」というまで持っていくべきです。吉野 計算問題や漢字練習は「慣れる」目安がつけやすいですが、小学校英語は「試す」までできれば慣れたのか、目安が明確ではありません。現在、常盤小では具体的な目標や活動設定

慣れるまで練習が必要

山口 英語を身に付けるには「習う・慣れる・試す」の3ステップが必要で、算数の計算問題は解き方を教わってドリルで練習すること、野球ならバットの持ち方や打ち方を教わったり、サッカーならボールを蹴ったりする。これが「慣れる」。従来の英語教育は「習う」だけで、もっと慣れる機会を増やし「試す」というまで持っていくべきです。吉野 計算問題や漢字練習は「慣れる」目安がつけやすいですが、小学校英語は「試す」までできれば慣れたのか、目安が明確ではありません。現在、常盤小では具体的な目標や活動設定

教材開発と教員研修

山口 現状の小学校英語の課題は子どもたちが自分の課題を準備する教材が不足していること。英語を習い始めたばかりの小学生でも楽しめる教材が不足している。過去形を知らないと今日あったことも相手を伝えることができません。手紙を書くという活動は「過去形は現在形の後には使えない」という発想で、いつまでたっても会話を進めることができません。教材開発と教員研修は、そのために必要です。山口 現状の小学校英語の課題は子どもたちが自分の課題を準備する教材が不足していること。英語を習い始めたばかりの小学生でも楽しめる教材が不足している。過去形を知らないと今日あったことも相手を伝えることができません。手紙を書くという活動は「過去形は現在形の後には使えない」という発想で、いつまでたっても会話を進めることができません。教材開発と教員研修は、そのために必要です。



LCA国際小学校で使われている教材のひとつ。単語や基本的な文章を、メトロノームのリズムに合わせて楽しく繰り返すことで、英語を身につけていく。

高めよう学校力、磨こう授業力

学校力・授業力 向上講座&交流会

3/5(土) 13:00~17:50 受講料無料 会場: 虎ノ門琴平タワー 3F 会議室 東京港区虎ノ門1-2-8 [アクセス] ●東京メトロ銀座線/虎ノ門駅2番出口より徒歩1分 ●丸の内線/千代田線/日比谷線/霞が関駅より徒歩7分 対象: 教員、教育委員会関係者、学生 定員: 60人 (定員になり次第、締め切らせていただきます) 主催: 日本教育新聞社 協賛: エル・シー・エー、ECCジュニア

2017年春に告示が予定されている新学習指導要領では、より効果的な教育課程への改善を目指すために、育成すべき資質・能力を起点として改善を図るよう構造的な改革を打ち出しています。「アクティブ・ラーニング」の実現は、その目玉として位置づけられています。日本教育新聞社では新学習指導要領に先取り対応するため「学校力・授業力向上講座&交流会」を開催致します。この講座&交流会では、厳選の講師陣に新学習指導要領の動向や対応策を学ぶだけでなく、参加者同士の交流を図ることで情報交換や参加者同士のネットワークづくりを促進します。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。

プログラム(予定) 基調講演 コミュニケーション能力の素地を高めるパトンの渡し方: 外国語活動から中高英語科へ 卯城祐司/筑波大学人文社会科学系教授・博士(言語学) 全国英語教育学会会長、前小学校英語教育学会会長 講演 発想を変え「使える英語」を身に付ける! ~小学校の英語教科化で変わる英語教育~ 山口紀生/LCA国際小学校校長 講演 英語習得のために、小学生からできること 谷口礼子/ECCジュニア 事業運営センター FCサポート課(研修・教務)リーダー 発表 ●施設一体型小中一貫校における、系統的な学びを通じた外国語を通じたコミュニケーション能力の育成 鈴木はる代/筑波大学大学院(つくば市立春日小学校教諭) ●外国語活動におけるストーリーテリング ~音声から文字への効果的な橋渡しを目指して~ 木村雪乃/筑波大学大学院・日本学術振興会特別研究員 交流会 参加者同士の交流により、学校現場の課題解決のヒントを探ります コーディネーター: 鈴木はる代、木村雪乃 \*詳細は、ホームページをご覧ください。



お申し込みは、ホームページから [先生解決ネット]にアクセスしたら、「学校力・授業力向上講座&交流会」をクリック! 講座&交流会の最新情報も、ホームページをご確認ください。 www.kyoiku-press.com 3/19(土)開催のICTがテーマの回もご紹介します。詳しくはホームページをご覧ください。